

身近な文化財

第二話
行き先や藩の境を
示す石柱

石造物は、ほかの文化財に比べて劣化しにくいいため、現在も各地で見ることが出来ます。

道の傍らに目をやると、よく見かけるのが道標（道しるべ）などの石柱ではないでしょうか。

道標は、現在の道路標識のように目的地までの距離や方向を示すもので、市内でも道路の分岐点などに残っています。

城下の二番町の交差点には、江戸時代に奥州街道と原方街道の分岐点に建てられていた道標があります。



▲高湯山道標
(二番町)

この道標は、白河の商人とみられる常盤惟貞が天保9年（1838）に建てたもので、「高湯山 右 那須原道 左 江戸海道」と刻まれています。高湯山は、那須の茶臼岳から湧き出る温泉をご神体とする霊場で、この道標は高湯山参詣の道案内を兼ねたものと考えられます。

また、白河藩と他領地の境を示す石柱として現在いくつか確認されている「藩界石柱」は、松平定信が藩主の時代に建て

られたと考えられます。

白河藩は大名の入れ替わりが多かった藩ですが、定信は長く白河を治める意志を家臣や領民に示すため、藩境の杭を石製のものにすることを記録に残しています。

この石柱は、境の明神付近に建つ「従是北白川領」と刻まれているものがよく知られていますが、白河関跡から南下した栃木県境の「追分の明神」にも同様のものが建っています。



▲藩界石柱
(追分の明神)



▲藩界石柱
(境の明神)

このほかにも「従是南白川領」と刻まれている石柱が大信上小屋から会津街道を北上した先の天栄村内にあるほか、矢吹町など市外でも確認されています。このように、当時の旅人が見ていた道標や石柱を今でも目にする事ができます。

文化財課 ☎272310

～白河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.2

今月号は、本市の代表的な景観を紹介します。

☎本庁舎都市計画課 内2232

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をインスタグラムで教えてください。

※詳しくは市ホームページへ



歴史景観

小峰城跡を中心とした旧奥州街道沿いの寺社仏閣、蔵などの歴史的な町並み、歌枕として名高い白河関跡、白河藩主松平定信が築造した南湖公園など貴重な歴史遺産が現代に引き継がれています。



▲小峰城跡と那須連峰

田園景観

阿武隈川、社川、隈戸川などの河川流域に優良な農地が広がり、田植えから稲刈りまで四季折々の景観を楽しむことができます。



▲関山と田園風景

自然景観

白河の最高峰である権太倉山のほか、関山や天狗山などの緩やかな丘陵地と緑豊かな森林からなる自然景観は、ふるさとを感じさせる貴重な景観資源となっています。



▲隈戸川流域からの権太倉山の眺望

眺望景観

白河の宝である南湖公園から望む那須連峰や関山、中心市街地から望む小峰城跡三重櫓は、白河を象徴する眺望景観として市民はもとより多くの来訪者に親しまれています。



▲南湖公園から望む那須連峰